「自然を守る大切さ」なんて僕ごときが簡単には語れない。だって、ただの芸人ですから

芸人・YouTuber
ヒロシさん

趣味のキャンプを一人で楽しむ様子をYouTubeで配信しいまや「ソロキャンプ」の達人として知られる芸人のヒロシさん。山や川で過ごす機会が多いヒロシさんに、自然の大切さや魅力を聞くはずがなぜか話は予想外の方向へ……。自然の厳しさを知るからこその建前やきれいごとや抜きの〝ヒロシ節〟をお届けします！

ひろし
熊本県出身。「ヒロシです……」の自虐ネタでピン芸人として大ブレーク。2015年からはソロキャンプの様子を配信するYouTuberとしても活躍し、チャンネル登録数が115万人（2023年2月時点）に上る大人気コンテンツに。著書に『大人のソロキャンプ入門』（SB新書）など。

まとめ／塚田有香　撮影／松木雄一

外で泊まるという体験にワクワクした少年時代

――ヒロシさんは子どもの頃からキャンプを楽しんでいたそうですね。

ヒロシ／小学校3年生くらいに親と行ったのが最初で、そのうち同級生と一緒に子どもだけでキャンプするようになりました。正確にはキャンプというより〝野営〟ですね。ちゃんとした道具なんてなかったから、家から持って行った蚊帳を張って、その中に布団を敷いて寝ていました。

――なぜキャンプにハマったのだと思いますか。

ヒロシ／もともと山とか川とか海とか、外で遊ぶのが好きだったんですよ。僕の出身地の熊本は山も多いし、近くには有明海もあったので、その延長で「外で泊まる」という体験にワクワクしたんじゃないかな。

――大人になってからは一人でするキャンプ、いわゆる「ソロキャンプ」を楽しまれています。なぜあえて一人で行くようになったのでしょう？

ヒロシ／大人になって久しぶりにキャンプを再開した頃は、何人かで行ってたんです。でもそのうちに面倒臭くなってきて。他人のペースに合わせなきゃいけないし、人数が多いと準備も大変だし。だったら一人でやればいいんじゃないかと思い、実際に試してみたら「すげえいいじゃん」と。それで10年ほど前からソロキャンプをするようになりました。

僕がキャンプに行くのはただ単純に楽しいから

――大人になってからのキャンプは、子どもの頃のキャンプとはまた違った楽しさがありますか。

ヒロシ／感じることは随分違いますね。子どもの頃は単純に「火をおこすのが楽しい」とか「外で寝るのが楽しい」という感覚でしたが、今はそれに加えて「夏はこんなに緑が濃くなるのか」「秋は紅葉がすごいんだな」と四季の移ろいを感じたり、「植物ってこんなふうに枯れていくんだ。まるで人生みたいだな」とはかなさを感じたり。僕も歳をとって、そんなことを思うようになりました。

――ヒロシさんにとって自然の中で過ごす時間は、日常の喧騒から離れて自分自身と向き合う時間でもあるということでしょうか。

ヒロシ／いや、そんなセンチメンタルなもんじゃないです。今も「外で過ごすのが楽しい」という単純な動機があるからキャンプに行っているだけ。インタビュー記事としては「都会の煩わしさから離れて、一人になれる大事な時間です」みたいなきれいなコメントがあるといいんでしょうけど、あんまりそんなことは考えないかな。

なぜ僕が六本木のパーティとかに行かないかといえば、楽しいと思わないから。でもそれが楽しいと思う人はパーティに行くわけです。単純ですよね。人間なんてそんなものです。

自然を守るには何が正解か線引きがすごく難しい

――なるほど……。今日は自然と接する機会が多いヒロシさんに、「自然を守る大切さ」についてもお聞きしようと思っていたのですが、今の率直な回答を聞いて、こんな型通りの質問をしていいものか迷っています。

羽田／う～ん、「自然を守る」って難しくないですか？　すごく漠然としていて、何が正解かわからない。

極端なことを言えば、地球上から人間がいなくなるのが自然にとって一

自然の中で四季の移ろいを目にすると
まるで人生のようなはかなさを感じます

いことと」と考える人もいれば、「自然にとって良くないこと」と考える人もいます。山林を守るには、木を伐採して間引く作業が必要だと知っている人は「良いこと」と考えますが、どんな理由があろうと自然本来の姿に人間が手を加えてはいけないと思っている人は「良くないこと」と考える。僕はソロキャンプの動画をＹｏｕＴｕｂｅで配信していますが、焚き火をしただけで「バクテリアが死ぬからやめろ」と本気で文句を言ってくる人もいます。それくらい人によって自然に対する考え方はバラバラで、「良いこと」と「良くないこと」の線引きが難しい。専門家や学者と呼ばれる人たちだって、それぞれ言うことが違ったりするので、考えれば考えるほど何が正解かわからなくなるんです。

――おっしゃる通り、簡単に答えが出る問題ではないと思います。

ヒロシ／だから「自然を守る大切さ」について聞かれたら、「僕ごときが何も言えないよね」という答えになります。だって僕、ただの芸人だし。「山にゴミを捨てるのはやめましょう」くらいのことは言えますが、これは自然を守る以前に、人としてやっちゃダメなことだと思っているだけで。

食べるものを自分で作る自給自足の生活が憧れ

――ヒロシさんは熊本県が開発したお米の新品種「くまさんの輝き」のＰＲを担当されています。２０２１年には、ご自身で種まきから田植え、収穫まで一連のお米づくりを体験する「ヒロシ米プロジェクト」の様子がＹｏｕＴｕｂｅで公開されました。農作業を体験した感想はいかがでしたか。

ヒロシ／農業には昔から興味があったんです。子どもの頃は庭に自分で畑を作って、トウモロコシやじゃがいもを植えていましたから。「自分で育てて、食べる喜び」とでもいうのかな。そういう感覚が好きで、今でも自給自足の生活に憧れがあります。

――自給自足ですか？

ヒロシ／なんかね、漠然とした不安があるんです。最近は物価がどんどん上がって、食品から電気代まであらゆるものが値上げしてるでしょ？　この状況で、みんなよく生きてるなと思いますよ。それくらい僕は都会の生活に恐怖を感じています。

だから田舎に自分の土地があって、そこで生活に必要なものを全部まかなえる仕組みを作れば、安心できると思うんです。田んぼや畑でお米や野菜を育てて、電気は自家発電して、水も自然の湧き水なんかを利用して。そんな生活ができたら理想的だなと思うことがよくあります。

農業は儲かるし、モテる　そんなイメージ発信を！

――ヒロシさんは農業や田舎暮らしに対して、ポジティブなイメージをお持ちなんですね。

ヒロシ／むしろネガティブな要素っておしゃれする人もいるはずだし。

農業や田舎暮らしというと、どうしても「ほのぼの」「のどか」みたいなイメージで伝えられがちですが、もっとカッコいいものとして発信してもいいような気がします。

――全国水土里ネットは、農地や農業用水路の管理・整備を手がける団体です。ヒロシさんはどんな時に「水」の大切さを感じますか。

ヒロシ／「人間にとって一番大切なのは水なんだ」と強く感じたのは、２０１６年に発生した熊本地震の時です。僕も水や食料を届けに被災地へ行ったのですが、現地に入ってわかったのは、「食べ物よりも、まずは水」。食べ物がなくても人間は2週間くらい生きられるらしいですが、水を飲まないと3日ほどで命を落とすそうですね。水がなければ人間は生きられないのだと改めて実感しました。

考えてみれば、人間にとって水が一番大切だから、水辺に人が集まるんですよね。長い歴史を振り返っても、文明が栄えるのは大きな川のそばだった。つまり水がなければ何も始まらないってことです。

だから水はすべての〝大元〟なのだ。僕はそう思っています。

人間にとって一番大事なのは水。
熊本地震の時にそれを強く感じました